

(1)保存地区の概要	(2)保存地区のあゆみ
地 区 名 高岡市吉久	平成 5年度(1993) 保存対策調査の実施 ～6年度(1994) 保存対策報告書の刊行(3月) 平成10年度(1998) 「吉久の伝統的町並みを考える会」の設立 平成11年度(1999) 第1回「さまのこアートinよっさ」開催 平成23年度(2011) 「高岡市歴史的風致維持向上計画」の策定・認定 平成23年度(2011) 「吉久まちづくり推進協議会」の設立 平成25年度(2013) 歴史的風致形成建造物の修理 1件 平成26年度(2014) " の修理 1件 平成30年度(2018) 保存対策再調査の実施 ～令和 2年度(2020) 保存対策報告書(再調査編)の刊行(5月) 令和 2年度(2020) 伝統的建造物群保存地区、都市計画決定 『重要伝統的建造物群保存地区』選定(12月) 令和 3年度(2021) 修理・修景事業開始 令和5年度(2023)～ 電柱カラー化、修景整備
種 別 在郷町	
面 積 約4.1ヘクタール	
選定年月日 令和2年12月23日	
特 徴 吉久は江戸時代に加賀藩の年貢米を収納する「御蔵(おくら)」の設置に伴い発展した在郷町で、江戸時代後期には加賀藩最大の御蔵となった。明治以降、御蔵は廃止されたが、吉久の有力町民は米の流通に精通した経験を活かし、合同で米穀売買や倉庫業に進出し成功を収めた。吉久ではこうした有力な町民を「米商(べいしょう)」「蔵(くら)仲間」と呼んだ。 保存地区は、緩やかに湾曲した放生津往来沿いに、間口が狭い町家と米商が残した間口の広い町家が混在して建ち並ぶ。主屋は通り土間を有さず部屋を並べる平面を基本とし、2階表側の部屋は「アマ」と呼ばれ、稲藁や軽量の農具等を収納する空間とするものが多く、創建当初の姿を維持しているものは表側の壁面に窓がなく、吉久特有の表構えを今日まで伝えている。	



(3) 保存地区の保存と整備

◆修理・修景、関連事業◆

<歴史的風致形成建造物 修理事業>

平成25年度 修理1件

平成26年度 修理1件

<伝統的建造物群保存地区 修理修景事業>

令和 3年度 修理1件

令和 4年度 修理2件

令和 5年度 修理1件

令和 6年度 修理1件、修景1件

災害復旧2件

令和 7年度 災害復旧1件

<歴史的風致形成建造物 修理事業>



[修理前]



[修理後]



<伝統的建造物 修理事業>



[修理前]



[修理後]

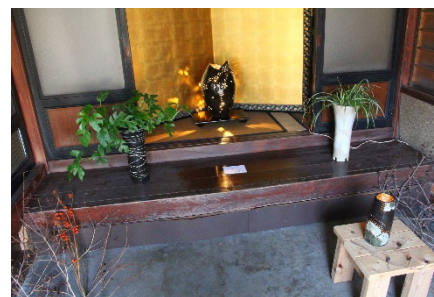
(4) 保存地区の活用とまちづくり

◆保存地区内でのイベント等◆

毎年10月には収穫の感謝として獅子舞が吉久神明社に奉納される。伝統的な町並みと地域の伝統芸能との共演の魅力にひかれ地区外からも多くのファンが鑑賞に訪れる。



さまのこアートinよっさ



吉久の住民でつくる実行委員会が毎年10月の秋祭りの日に合わせて開催しており、保存地区を主な舞台とし、町家の内外に絵画や工芸などのアート作品が展示され、吉久の町並みの魅力とともにアート作品の魅力も発信する催しを行っている。

(4) 保存地区の活用とまちづくり

◆建造物の活用事例◆

地元住民が、解体される予定であった空き家と土地を取得し、陶工房と喫茶を始め、伝統的な町家の中で食事ができるスポットとして注目を集めている。近年は、他の地区住民も空き家を取得し、保存地区内で催しものを行うことができる町家として公開している。



さまのこ屋〈陶工房と喫茶〉



みのり あん
農庵:ライブイベントの様子

◆吉久朝市◆

当初は公園や地域の公民館で朝市が開催されていたが、令和3年3月から保存地区の町家の軒下や町家の中で、おこわ、もち、惣菜や衣類等の販売を行っており、地域の買い物支援、住民相互のふれあいの場となっている。



(5) 住民の取り組み

◆吉久まちづくり推進協議会◆

高岡市が「歴史的風致維持向上計画」の認定を受けたことを契機に、既存の保存会「吉久の伝統的町並みを考える会」と地元自治会が一体となった「吉久まちづくり推進協議会」が設立された。

重伝建地区の選定を受け、次世代へ吉久の歴史や文化を継承する一助となるよう、令和3年1月に吉久の歴史や文化を紹介する絵本の発刊を行った。加えて、令和3年5月には町並み保存はもとより、より活発に活動するための体制として、まちづくり部会・おもてなし部会・広報部会を組織した。

これまで“まちづくりだより”の発行や富山大学と連携した観光案内サインの設置や空き家、軒先を活用した事業等を実施した。今後は引き続き、ボランティアガイドの養成を行っていく。(吉久まちづくり推進協議会会長 70代男性)



〔観光案内サイン〕



〔まちづくりだより〕

◆NPO法人吉久みらいプロジェクト◆

吉久みらいプロジェクトは、地区住民をはじめ吉久の町家、町並みに関心のあるあらゆる人に対して、町家を利用した交流および地域の歴史・文化の研修活動を行うことで、町家の活用を促し、魅力ある町並みの形成とその継承及び暮らしやすいまちづくりの促進に寄与することを目的として設立された。

これまで、空き家活用に向けた所有者との地道な調整を行っており、重伝建選定後は、町家への移住促進のための動画を作成した。今後は引き続き、当団体が所有する町家を利用した各種イベントや、まちづくりに向けたワークショップの開催を企画していく。

(NPO法人吉久みらいプロジェクト理事長 70代男性)